

「the+比較級 S + V~, the+比較級 S + V…:~すればするほど、それだけいっそう…」の構文における注意点。

the+比較級の構文の the は冠詞ではなく副詞で、最初の the は、by how much で言い換えられる「どれだけ[関係副詞]」という意味、後半の the は、by so much で言い換えられる「それだけ、それだけよけいに[指示副詞]」という意味だ…

うんぬんの文法的な解説ではなく、実際に受験生が解答を書く上で大切になるポイントをいくつかあげてみました。

- ① 「The+比較級 S + V~」の「V」の部分が、be動詞や become の場合、「V」が省略されることが多い。

(ex) The older we grows, the weaker our memory.

上例の後半部は the+比較級+S(名詞) という構造でVがありません。このような場合、be動詞もしくは become がSの後に省略されていることを見抜かなければなりません。この英文では become を memory の後ろに補ってみるといいでしょう。

⇒ The older we grows, the weaker our memory **becomes**.
年をとればとるほど記憶力は弱くなる

- ② 「The+比較級 S + V~」の部分が3つあった場合には、and のない方が前後半の切れ目とみなす。

たとえば、

The+比較級 S + V~ and the+比較級 S + V~, the+比較級 S + V…

という構造の英文があつたら、

The+比較級 S + V~ and the+比較級 S + V~, // the+比較級 S + V…

つまり、「~すればするほど、そして~すればするほど、それだけいっそう…」と訳せばいいでしょう。

The+比較級 S + V~, the+比較級 S + V… and the+比較級 S + V…

という構造の英文があったら、

The+比較級 S+V~,// the+比較級 S+V... and the+比較級 S+V...

つまり、「～すればするほど、それだけいっそう…でありまた(それだけいっそう)…だ」と訳せばいいでしょう。

練習問題をやってみましょう。

The more things you are interested in, the more opportunities to be happy you have, and the less you are at the mercy of fate.

《語句》 opportunity (to do[願]~):(~する)機会
at the mercy of A:Aのなすがままになって、左右されて
fate:運命

上の英文の場合、and のない方が前後半の切れ目ということですから、in と the more opportunities の間がそれ(前後半の切れ目)と考えるわけです。そうすると訳はこんな感じになります。

「興味を持つものが多くなればなるほど、それだけいっそう幸せになる機会も多くなるし、運命に左右されることも少なくなる」

③訳がよくわからなくなったら、元の形に戻してみるといい。

(ex) The more information you get, the more likely you are to pass the exam.

上の英文の場合、前半部の the more information は元々、get の目的語です。そこで

⇒ You get much information. 沢山の情報を手に入れる

と、元の位置に戻してあげるとよりわかりやすくなります。

會上記のような、元々「形容詞+名詞」の形で文中で使われていた形容詞が比較表現で使われた場合、その「形容詞+名詞」の部分はバラバラにせずにワンセットで移動させるというルールがある。だから the more と information がセットで文頭に飛び出したのだ。

後半部の the more likely は元々、be likely to do[願]~という構文の一部でした。そこで

⇒ You are likely to pass the exam.

試験に合格する可能性が高い

と、元の位置に戻してあげるとよりわかりやすくなります。そうすると先程の英文は「沢山の情報を手に入れば入れるほど、それだけいっそう試験に合格する可能性が高くなる」と訳せるわけです。